

社会福祉法人
日本医療伝道会
Japan Medical Mission
http://www.kinugasa.or.jp/

KINUGASA

Volume. 38 Issue. 3

～「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」マタイによる福音書25章40節～

第414号

チームワークで地域のニーズに応えよう

新年度を迎え伝統ある社会福祉法人日本医療伝道会事務局長と衣笠病院の事務部長に就任いたしました。責任の重さに身の震えを感じます。今や急激な少子高齢化社会が進む中、地域における医療・介護・福祉のスタンスが大きく揺れ動いています。

二年前医師の研修制度の義務化を境に医科大学からの医師の派遣に大きな変化が起き、特に地方の中小の病院は産科・小児科・麻酔科医師引き上げ現象が現実化されました。法人施設の中心的役割を担っている衣笠病院も、従来の生命



社会福祉法人 日本医療伝道会
常務理事・法人事務局長
総合病院 衣笠病院 事務部長
古屋修身

の誕生からターミナルまでのスタンスにも大きな影響が出ています。地域に根ざした高質な医療の提供を願っても、様々な困難の要素で厳しい状況を余儀なくされています。

その上、国の財政上の理由で医療保険、介護保険が大幅な減額改定が強いられました。けれど、私達は唯、単に嘆いている訳にはゆきません。どんな困難な状況下であっても、地域のニーズに伝えていかねばなりません。あくまで病院の設立精神「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」

に立った経営をする責務があります。しかも、結果として「来てよかった病院」と言われるように、医の心を持って患者様中心の医療を実践する努力をしなければなりません。

信頼に伝えていくためにも、安全な医療、質の高い医療を提供していかねばなりません。何よりも衣笠病院はやさしくて、温かな医療・看護・介護を実践する病院でありたいと思います。

いまや、衣笠病院だけで全てを解決する時代は終わりました。他の病院や福祉施設との連携も必要ですが、何よりも、地域の医療・診療所との密接な連携が最重要課題です。もっと病院の働きを先生方に伝えていかねばなりません。また同時に診療所の病院に対するニーズに無条件で応えていかねばなりません。そのためには先ず衣笠病院が診療所の先生方に信頼される病院でなくてはなりません。ご紹介患者の受け入れは当然ですが、

急病、救急の受け入れも積極的に取り組む必要があります。

衣笠病院と法人の各施設が、その持てる機能を如何なく發揮して、患者様や利用者様に応えていくためには、スタッフ同志のチームワークが不可欠です。各施設で働くスタッフは、七〇〇人おります。それぞれ価値観が違います。持っているタレントも違います。けれどもどの施設であっても自分の力を發揮し、少しでも患者様、利用者様の苦痛や不安を解消したいと思っ、汗を流して努力している筈です。本当に喜ばれる医療や看護や介護をしたいのです。今こそ衣笠病院運営理念の下、皆が心をつにし、チームワークで頑張っていく必要があります。もっともっとお互いに相手を尊重し、連携しようではありませんか。必ず良い結果がでます。心地良い疲れとなります。そこに神の祝福があります。何よりも衣笠病院の使命が果たせます。

健康管理センターの働き

所長 佐藤 剛



衣笠病院で人間ドック業務が開始されたのは一九七二年、当時は

人間ドックによる生活習慣病の早期発見「健診外来」「健康づくり教室」「健康講座」による生活習慣改善と健康増進など、皆様の健康維持に健康管理センターを是非ともお役立ていただきたい。

保健センターと呼ばれていた建物の中で一部の簡単な検査だけが行われ、X線などの検査は病院の設備を利用して行われていました。一九八七年に現在の建物が竣工し、脳ドックのMRIを除き、全ての検査が病院の患者さんとかち合うことなく受けられるようになりました。最大の特徴は運動指導室を設置していることで、資格を持った専任の健康運動指導士が受診者の運動指導に当たっています。このようなドックは全国でも数少なく、あっても選択制の場合がほとんどで、当ドックのように受診者全員を対象にしている施設はそうはありません。また指導後のフォローがしっかりしているのも特徴で、高血圧や糖尿病、膝痛などに対する運動指導を予約制で行っています。会費制の運動指導室クラブ会員になりますと、月二〜八回の健康づくり教室と年二回の「歩こう会」に参加することが出来ます。また月一回の「健康講座」は旬のテーマで開催しています。さらに運動指導室では介護予

防事業として高齢者ケア付き住宅、特別養護老人ホームやデイサービスでの指導を定期的に行っています。また商店街、小中学校、刑務所などでの運動指導・健康チェックや健康セミナーの開催など地域でも積極的にを行っています。

受診後のフォローは運動指導だけではなく、ドックの検査で異常が見られた場合、ドック受診者のための優先内科外来「健診外来」を予約制で週三回午後開いております。この外来で対応できない場合や、他科・他院の受診をご希望の場合は積極的に紹介状の発行やX線写真類の貸し出しなどを行っており、受診者の利益になるよう努めています。



胃部X線検査

人間ドックの大きな目的の一つは食生活、運動不足、飲酒、喫煙など長い間の生活習慣が原因で引き起こされる糖尿病や高血圧、高脂血症などの「生活習慣病」の早期発見です。これらの病気が初期には自覚症状が少なく、また生活習慣改善で予防・改善できるのが特徴です。人間ドックや市民健診など何らかの検査を受けなくては気づかれない場合も多々あります。残念なのは、せっかく異常が発見されても、治療は勿論、生活習慣さえ改めてくださいとしない方がいらっしやることです。当センターではドック終了時、当日検査結果が判っている分をお話ししていますが、「どうせ毎年同じだから」とか「先生に怒られるからイヤ」などの理由で説明を聞かずに帰られる方もいます。また治療や生活習慣改善をおすすめしても「まだ痛くも痒くもないからいい」と主張なさる方もいます。今の時代、車を運転する方も多いと思います。運転中にメーター類が異常値を示したらどうするでしょうか。例えば水温計が異常高温を示したり、燃料警告灯が点灯したら、「まだ車は動いているので、完全に止まってから対策をとれば良い」と考えるで

しょうか？大抵の人はすぐに何らかの対策をとらないでしょうか？オーバードライブなら運転をやめ、エンジン冷却したり、原因を調べるため整備工場へ行ったり、ガス欠なら直ぐにガソリンスタンドを探すのではないでしようか。人間ドックの結果表も車のメーター類と同じです。警告が出ていれば対策をとるべきではないでしようか。車は壊れても、お金を出せばまた買えます。しかし人間の体はそうはいきません。これからの時代、壊れてから病院へ行くという考え方は改めるべきです。生活習慣改善で予防できるものは予防しましょう。ぜひとも人間ドックとその後の「健診外来」「健康づくり教室」「健康講座」などを上手に利用し、生活習慣改善・健康増進に役立てて下さい。お待ちしております。

人間ドック一般料金表(消費税込み)

日帰り人間ドック	¥44,100
宿泊人間ドック	¥65,100

オプション検査料金

子宮癌検査 (頸部)	¥4,200
〃 (体部)	¥4,200
HBs抗体検査	¥1,890
HCV抗体検査	¥3,518
前立腺癌 (PSA)	¥3,780
マンモグラフィー	¥5,775
ピロリ菌検査	¥2,048

お問い合わせ・申込先
衣笠病院 健康管理センター
TEL: 046-852-1115

衣笠病院

なるべく多くの方に人間ドックを受けていただくために
また、不自由なく、気持ち良くご利用いただくために
スタッフ一同これからも努力してまいります。



後ろの男性が執筆者志水課長です

人間ドックの上手な受け方

業務課長 志水 勝

一般的に人間ドックは高額なので受診するのに躊躇する方々が多いと思います。人間ドックを受けたいと思っても高いからと思いつまってしまう方は、一度健康保険証を確認してみてください。健康診断・人間ドックなどは健康保険が利かないのに何故？と思われるかも知れませんが補助金を出してくれる健康保険組合が多いのです。衣笠病院健康管理センターでの人間ドック受診者の内、全額自費で受診する方はおよそ七％、九十三％は何かしらの補助を利用しています。ではどうやって補助が有るか無いかを確認するのか。手取り早いのは加入している組合や団体に電話をして「衣笠病院健康管理センターで人間ドックを受けたいのですが補助や助成金は有りますか？」

■男女別・年齢別受診者数

年齢	男性	女性	合計
20～29	17	22	39
30～39	223	283	506
40～49	543	646	1,189
50～59	702	772	1,474
60～69	457	412	869
70～79	233	221	454
80～89	33	34	67
90～	1	0	1
合計	2,209	2,390	4,599

と聞いていただくことです。助成制度が有れば条件や申請方法を教えてくれます。もし、助成制度が無ければ四月・五月に受診することをお勧めします。衣笠病院健康管理センターでは四月・五月を「健康月間」として助成を全く受けられない方を対象に特別料金で人間ドックをお受けいただけます。

左の表は、昨年度の人間ドックの受診者数です。

若くてお肌に張りがある年代には自信が有った「健康」が徐々に自信がなくなってくるのと同時に、結婚をして家庭ができ、子供が産まれて守るべき人が増えてくる、その家庭の中で、もし自分が不治の病になったら“なんてことを考えたり話し合ったりする。そんな年代から受診者数は増えて来ます。

何はともあれ一度お電話ください。皆様のご来院を心よりお待ちしております。



前列右側が執筆者古田さんです

センター看護師の働き

看護師 古田 節子

健康管理センターには、常勤四名の看護師がいます。人間ドックでは、毎日二十名程の受診者にお会いして、まずは普段どの様な日常生活を送っている方なのか、お話しを聞かせていただきます。限られた短い時間の中で受診者の生活習慣をお聞きし、指導へ結びつけていく難しさを、日々痛感しています。毎年受診される方の中で、今回は外食を減らして体重を落としましたとか、飲酒を控えて休肝日を作りましたと話しが改善され、また頑張ろうと帰って

いかれる姿をみると、こちらも嬉しくなります。ドック受診が日常生活を振り返り、健康を考える良い機会になればと思います。

最近が高齢化社会に伴い、受診者も七十代以上の方が増えています。当施設にはエレベーターがありませんので、ご利用される方々にはご迷惑をおかけしてありますが、安心して健診を受けていただけるように、スタッフ一同安全面にも充分配慮するよう努めております。

最近では、マンモグラフィ（乳房エックス線撮影）を希望される方も増えています。また、当センターでは乳癌触診用モデルを使用し、受診者に癌のしこりが指先にどう触れるのかその感触を体験していただいています。乳癌は自分で発見できる癌です。是非触診方法を覚えて、自己検診を行うことをお勧めします。

そのほか、企業の定期検診、就職・入学の個人健診、老人施設入所のための健診を週三回（月・火・金）行っています。また、週一回（木）乳幼児健診と予防接種も実施しています。地域柄、外国の方も見えるので、英語・ポルトガル語・タガログ語・ハンガール語・スペイン語・中国語の問診表を準備しています。育児・予防接種に関する質問も随時受け付けておりますので、どうぞお気軽にお越しください。

中学生の職場体験 仕事は大変！でもやりがいがある



衣笠病院 東館5階病棟 看護師長
糖尿病療養指導士 井上はるみ

衣笠病院では自分の将来を考える進路指導の場として、また働くことの大切さ・厳しさを知る場として近隣の中学校・高等学校からの要望を受け、多くの生徒さんの職場体験を行なっております。

病院内の各病棟での看護体験を中心に、併接する衣笠ろうけん施設見学、病院内で働く色々な職種の人々を見学、現場での体験をさせていただきます。生徒さんはそれぞれ職場体験前に自分でなにを学びたいかを明確にして臨んでいきます。そんな生徒さんの熱心な姿にはとても感心させられます。

生徒さんそれぞれがこの衣笠病院職場体験でたくさんを学び得ていることを私達もうれしく思います。職場体験後に寄せられた生徒さんのお礼の手紙や作文からその一部を二回に分けてご紹介したいと思います。

横須賀市立田浦中学校

二年 鷺巣沙彩

今日、衣笠病院に体験学習をしに来て、一番思ったことは、病院内のすべての人がやさしくて、また看護師さんと患者さんの関係がすごく良いと思いました。看護師さんの仕事をやらせていただいて、患者さんが笑顔になって喜んでくれると「やっ

たために何かしてあげたい」などの気持ちになりました。今回、配膳をやった時に、すべての患者さんに合った食事が考えられていておどろきました。また、その食事をその人がどれだけ食べたかを細かに記入していたことは知りませんでした。食事を配ったときに「ありがとう」と感謝されてとてもうれしかったです。その他にも患者さんの手を洗ったりと普段ではできない体験をさせていただきました。

今日の体験学習であらためて看護師さんのことを考えて「人の命をあずかることは、やはり大変なことだな」と思いました。患者さんにとって看護師さんは、なくてはならない人だなと実感し、いろいろな仕事をこなす看護師さんを尊敬しました。

私の小さい頃の記憶にも、とても優しくかった看護師さんがいて、本当にお世話になったなあと思います。看護師さんが私の相手をしてくれたから、大嫌いだだった病院で生活することもできたので、その頃から私は看護師さんにあこがれていたのですが、今回の体験でさらにその想いが強くなりました。

また、看護師だけでなく、薬剤師さんやヘルパーさんの仕事にも興味を持ちました。今日の体験で得たものをいかせるように将来のことを考えたいと思います。

本日は、一日お世話になりました。ありがとうございます。

横須賀市立田浦中学校

二年 吉田優子

今日一日色々な体験をさせていただきました、ありがとうございます。病院内を案内していただいた時、すれちがう方は皆笑顔で挨拶をしてくれましたので、挨拶や人との関りの大切さをあらためて感じました。病院の中は、どこも明るい雰囲気、ここに来る患者さんが気持ちよく診察を受けたりできるようにと思われていることが分かりました。

エレベーターに入り、口が二つあったり、たくさん工夫があり、普段あまり何も考えずに来た時は気が付かないけれど、細かいところまで考えてあるのがすごいと思いました。

実際に病棟で教えていただいた時は、ベッドの片付けや作り方、お茶を配る時のこと、車椅子の押し方など丁寧に教えていただいたのがとてもうれしかったです。「失礼し

きれいにできるかな？
初めてのベッドメイキング



職場体験2日目に参加した
田浦中学2年生

ます」や「(車椅子の時)進みます」という言葉が重要なということがよく分かりました。相手のことを考えてそういつた声をかけなければ「ケガ」をしている方は、小さなことでも辛かったりする。だから細かいところまで考えなければならぬと思います。私は、普段からそんなに考えて行動していなかったのですが、今日ほんの少しのことしかしていません、とても疲れました。人とのコミュニケーションというのは難しいことで、それができなければ人の役に立つのも大変なことだと思いました。

新任ドクターの紹介



内科主任医長
山田 秀一

東海大学
05年12月着任

- ① 青森県
- ② 消化器
- ③ 映画
- ④ 年令に合せた医療。意識がない患者様に対しても痛みを感じてあげること。



整形外科医師
富田 隆太郎

聖マリアンナ医科大学
05年12月着任

- ① 東京都
- ② 整形外科
- ③ 車、子供、旅行
- ④ 勢いのある診察



ホスピス医師
近藤 ゆかり

東京女子医科大学
06年3月着任

- ① 東京都
- ② 緩和医療
- ③ 旅行、ウォーキング、美術鑑賞
- ④ できるだけ患者様ご自身で選択ができるように、情報提供、分かりやすい説明を心掛けています。

新たにお迎えしたドクターに質問をいたしました。
① 出身地
② 専門分野
③ 趣味
④ 診療の際に心掛けてい
ること



整形外科医師
鳥居 良昭

聖マリアンナ医科大学
06年4月着任

- ① 東京都
- ② 整形外科
- ③ 仕事
- ④ 明るい診察



皮膚科医師
楠 舞

北里大学
06年4月着任

- ① 群馬県
- ② 皮膚科一般
- ③ 音楽活動、美味しいもの
- ④ わかりやすい説明。患者様と共に考え、各個人にあった治療法を選択すること。

衣笠病院のご近所の皆様へ

拝啓

若鮎おどる季節、ますますご健康のこととお喜び申し上げます。

さて、一昨年夏のこと、衣笠病院に医療技術部が誕生いたしました。診療部とか看護部と違って耳慣れない部だろうと思います。臨床検査科、リハビリテーション技術科、栄養科、放射線技術科、医療福祉相談室、視能訓練室という部門の集合体で、これらが一体となって保健・医療・福祉に一役買いたいというところであります。

このヒヨッコ達の運営目標に「地域社会との協調」というのがあります。私たちはかねてより、私たちができる保健・医療・福祉の実践への最大の近道は、私たちの専門性を生かして地域の方々との膝を交えたお付き合いにある、と考えておりました。衣笠病院在宅介護支援センターで横須賀市の委託事業の一つとして介護予防教室を実施しており、そこに便乗して衣笠病院医療技術部地域講習会を開催しようと、二〇〇五年六月より準備を始めました。具体的には、近隣の町内会館などに出向き、それぞれの持つ専門分野を紹介し、お集まりいただいた方々と直接質疑の時間を持つ、としました。

昨年九月二十二日午後（晴）、リハビリテーション技術科技師長による肩こり・腰痛・膝痛のための「棒体操」、臨床検査科による血圧・血糖値測定を留意し、市営公郷アパート集会所で第一回講習会開催。その後、本公郷町内会館、平作町内会館へお邪魔いたしました。

二〇〇六年二月からは、言語聴覚士による「難聴の話し上手」に聞くには「話すには」をテーマに各町内会を訪問させていただきました。嬉しいことに近所の神金町内会からオフアールを戴き、三月に訪問しております。今後は医療技術部のみならず、医師や看護師にも声掛けし、皆様と病院とのお付き合いをより深めたい、そんな思いを実現させて参ります。どうぞよろしくお願いたします。

梅雨時です。ご健康にはくれぐれもお気を付けください。

敬具



衣笠病院 医療技術部
部長 千葉 一

衣笠病院
ケアセンター



衣笠病院ケアセンター 訪問入浴介護事業所
管理者 津田真人

お風呂大国ニッポン

「お風呂にはいってよかった!!」

毎年一回デベロ老人福祉研究所主催で全国各地の福祉関係者を集め全国入浴福祉研修会が開かれています。第四十一回目の今年は二月二十三日・二十四日に横浜で催され、メインテーマを「訪問入浴介護の効果と可能性」とし、介護予防からターミナルケア（終末期ケア）までを考えようという内容で開かれました。講師には、群馬大学の白倉卓夫名誉教授や桜美林大学大学院の柴田博教授、茨城県立医療大学の小池和子教授などが招かれ、専門分野の講義が二日間にわたりに行われました。その中、今回は会場が横浜ということで衣笠病



院ケアセンター訪問入浴介護事業所と藤沢にある訪問入浴サービス鶴生園に事例報告の依頼があり、衣笠病院ケアセンターでは「訪問入浴介護におけるターミナルケア事例」を、訪問入浴サービス鶴生園は「訪問入浴介護における認知症事例」を発表することになり、衣笠病院ケアセンターからは管理者と看護師の二名が出席しました。

昨年九月に事例報告の依頼があり、二月までの約六ヶ月間に数回の原稿校正をデベロ老人福祉研究所の西三郎代表理事と行い、研修会に参加した福祉従事者に、具体的に報告することができました。

現在、医療技術が飛躍的に高まり、高齢化社会が進むなかで、訪問入浴介護従事者の役割とは、単純に体をきれいにするだけのものでは無く、あらゆる疾病の知識と介護技術の向上、また介護者の負担軽減など多くが求められています。今後、情報開示が進み、サービス提供側は依頼を受けるだけではなく、サービスを受ける側が介護事業所を選ぶようになります。そういったなかで今回の研修では訪問入浴介護の効果とその可

能性について多くを学ぶ研修となりました。

入浴するということは、欧米では「シャワーを浴びて、汚れを落とす」と考えられ、湯舟に入ることは少ないですが日本人はどうでしょう。老若男女・障害の有無・経済力にかかわらず、だれもお風呂に入るといふことを日常的に行っています。もちろんお風呂に入ることが好きだけどころで入浴が困難な寝たきりの方も、医療依存度が高い方も、認知症の方も、感染症のある方も、以前は自宅での入浴は困難でしたが、現在は入浴することができるようです。

今回私共が事例報告をした「訪問入浴介護におけるターミナルケア事例」は、医療依存度の高い、癌による余命一ヶ月で強く入浴を希望される方に対して、いかに安全で快適に入浴していただくか、訪問入浴介護従事者だけではなく訪問看護師や主治医、またご家族と協力・連携をとったという内容です。亡くなられるまでの三週間に五回ほど訪問しましたが、利用者本人をはじめご家族からも「お風呂にはいれてよかった」「お風呂にいれてあげられてよかつ

た」と聞くことができました。研修出席者百数十人に聞いていただきましたが、多数の共感と質問を受ける結果になりました。全国各地の訪問入浴介護事業所でもターミナルケアを必要とされる利用者が多く、「どういったところに注意しましたか?」「当事業所でもターミナルケアを必要とされる方が多いのでとても共感できます」といった声を聞くことができ、反響もとても大きかったです。今回の発表で各教授や他事業所の職員と意見交換をすることができ、「入浴」の持つ治療効果と人間にもたらす効果・可能性を再認識することができたと感じています。

科学が進み、新しい福祉用具や大型福祉機材が開発されていくなかで、訪問入浴で使われる特殊浴槽も日々新しいものへと変化をしています。私共の事業所では、現在広く使用されている特殊浴槽の他に、デベロ老人福祉研究所で開発された新しい特殊浴槽を使用しています。新型浴槽は金属の使用を極力控え、温かみのあるものになっています。

今回の事例報告のように、終末期を迎える方やご自宅での入浴を希望されている方に、この研修でご自宅での安らかな入浴のひとつを提供できることが、再認識できました。その「入浴」の持つ効果と可能性を、存分に生かしていこうと思っております。



チャプレン：chaplain
患者様やご家族の心のケアに
あたる専門職

社会福祉法人 日本医療伝道会
法人付牧師 山田和人

感謝しています。心から、続ける意欲となりました。章を人目にさらす以上、自分自身を相手にさらす、もしくは開くという事です。相手と対話をしながら、その中で内なる自分自身が動き始めていることに気づき、そこから自身との対話が始まっていきます。相手の語りに耳を傾けながら、語られたことに承認と支持を繰り返すこ

MINISTRY OF PRESENCE ミニストリー オブ プレゼンス チャプレンのダイアリー

対話の空間を広げる

この機関紙の中に小さなコラムを書き始めたのが、ちょうど四年前のこと。機関紙とは言っても、衣笠のために様々な形で支援をしてくださっている方や病院にいられた患者さん方の目に触れることを考えると、拙い文章を載せることに多少の躊躇がありました。それでも、わたしが現場での経験を元に発信していることに関心を持つて受け止めてくださっている方々がいることを知り、そのような方々と対話をするつもりで書き続けてきました。これを読んだくださったことがきっかけで、講演に招かれたこともあり、そこで出会った人々との対話から数々のフィードバックを受け取り、それが書き続ける意欲となりました。心から、感謝しています。

とだけに終始していると、やがて対話の空間が生まれてきます。最初は意識的だったことが、徐々に自分の領域を離れ、ゴム風船のように軽くなっていきました。何かを言わなくてはいけない、何かを聞かなくちゃいけないというこだわりから自由になり、相手に自分を委ねることへの信頼感と安心感の中で佇むことができ、からだに楽になります。このように対話の力を信頼できるようにするのは、出会い、語りかけて下さり、迎え入れてくださった方々と大切な時間と意味とを共有できたからです。生きていられることが限られたわずかな時間であることを知っておられた方にとっては、本当に貴重で大切な「時間」でした。対話の空間に共

さで、四年間の連載をひと区切りし、少し暇をいただきたいと思えます。紙面でしか出会っていない方々とも何らかの対話があることを想像しながら書き続けてこられたことを感謝しています。ありがとうございます。

幼いサムエルは三度主から呼ばれました。三度ともサムエルは、仕えていた祭司エリが自分と呼んだと思い、エリの元に飛んでいきました。しかしエリは三度目にこれは主がサムエルを呼んでいるに違いないと思い、サムエルに、「再度呼ばれたら、『主よ、お話しください。僕は聞いております。』と応えなさい。」と教えました。そこでサムエルはその様にし、主にまみれました。この話から私たちの「きく」姿勢が学ばれます。

聖句

サムエルに言った。「戻って寝なさい。もしまた呼びかけられたら、『主よ、お話しください。僕は聞いております。』と言いなさい。」サムエルは戻って元の場所に寝た。

サムエル記上 三章九節

東京新教会
牧師 國枝欣一

内容を明確に把握する必要がありません。その時必要なのが「訊い」て確かめる、すなわち相手の言っていることの意味を共有する姿勢です。

医療職、他人を援助する仕事、援助職にある人々にとって大切なのは、相手のニーズに応えることですが、そのためにはこの三つの「きく」をしつかり使い分けることが、とても重要なのだと思います。患者さんやその家族の言つことを「きく」時には、「聞き」流してしまわず、自分の経験や知識を前提にせず、虚心坦懐に「聴く」ことが要求されます。その上で相手の表現している中味を、「私」が十分理解したかどうか確かめるために「訊く」ことが肝要です。

患者さんに真に「きく」ことができるようになるということは、意識していようがいまいが主のみことばを「きく」ことができるようになることに繋がるのです。それは衣笠の理念を具現化することでもあるように思います。

「聞く」、「聴く」、「訊く」、「三つの「きく」

病院祭

衣笠病院が地域の皆様と共に歩んだ59年。8月1日の衣笠病院創立記念日に今年も「衣笠病院創立記念祭」を開催いたします。地域の皆様、一緒に楽しみませんか？ぜひお出かけください。お待ちしております。

日時：8月1日（火）17：30～
場所：衣笠病院 ホーム跡駐車場



衣笠ホーム36周年 納涼会

日時：7月22日（土）11：00～15：00（雨天決行）
内容：バザー・フリーマーケット・模擬店（やきそば、やきとり、かき氷、ポップコーン、つり掘、餃子、喫茶、その他いろいろ）・とれたて！地元野菜販売 など
会場：横須賀市芦名2-4-1 衣笠ホーム
募集：バザーの物品、但し古着と生ものはご遠慮ください（6月末までに衣笠ホームにお持ちください。事務所に声をかけてね）フリーマーケット出店者（1区画1,000円。出店は抽選となります）

楽しいよ 遊びに来てね 待ってま～ず



詳しいお問合せ下記までご連絡ください。
連絡先：特別養護老人ホーム 衣笠ホーム
TEL：046-856-7101
担当：越智（オチ）

記事中の写真は全てご本人様の承諾を得て掲載しています。

健康講座

- 6月17日（土）第51回 ウォーキング～正しい歩き方～ 13：00～ 講師 大塚 洋
- 7月22日（土）第52回 骨盤体操～カラダの歪み解消～ 13：30～ 講師 岩崎宏子

糖尿病教室

- 6月15日（木）食事療法・栄養指導・糖尿病の検査 他 14：00～16：00
- 7月20日（木）食事療法・栄養指導・薬物療法 他 14：00～16：00

パイプオルガンミニコンサート

- 6月24日（土）15：00～第126回 演奏 山田篤子
- 7月22日（土）15：00～第127回 演奏 清瀬雅子



看護部 東館4階病棟看護助手 高橋みどりさん 勤続20年5ヶ月



事務部 事務部長 鈴木正巳さん 勤続41年2ヶ月



衣笠ホーム 事務職員 百瀬久子さん 勤続15年1ヶ月



医療技術部 栄養科調理員（ホーム・病院） 杉本敦子さん 勤続11年2ヶ月



看護部 東館5階病棟看護師 小嶋宏江さん 勤続20年2ヶ月

ありがとうございます
そして、さようなら
退職者のお知らせ

二〇〇六年三月三十一日付で衣笠病院から四名、四月三十日付で衣笠ホームから一名の方が定年退職を迎えました。これまでのお働きに心から感謝申し上げます。
これからも、お元気で、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

編集後記

新緑もおわり梅雨空が気になる季節となりました。毎年行われる健康診断ではいつも少し肥満がみ、アルコールを控えめに、運動不足ですとのご指導を受ける。自分自身も体力がなくなってきたと感じることが多くなってきた。
最近運動不足対策として昼休みに近くの衣笠山の麓までウォーキングを行うようにしている。昼食をかねこんで病院の駐車場出口よりけんか坂へ向かい途中を左折して細道を進むと、衣笠山への入り口に到着する。そこからは上りの道で、落ち葉の絨毯の快い感触を味わいながら、桜の木を中心とした雑木林、灌漑用水用の溜池をとり一気に麓の公園まで進む。病院から数百メートルしか離れていない場所だが、ここは別世界。深い樹木に囲まれ、目をつむると様々な鳥の鳴き声が聞こえ、木々の揺れる音が爽やかな風に運ばれてくる。
ちようど往復三十分のプチ森林浴。来年の健康診断では少しでもいい結果を目指したい。
M・A

衣笠 第414号

〒238-8588 横須賀市小矢部2-23-1
社会福祉法人 日本医療伝道会

理事長 井口 延

電話 (046)852-6256(法人)

振替口座 00220-2-13963